

伯耆大山 北壁 滝沢尾根 山行報告

日 時：令和 5 年〔2023 年〕3 月 4 日

参 加 者：土橋誠・中野正大・岡村繁雄

行 程：県営大山第 1 駐車場 → 元谷 → 滝沢尾根 → ラクダの背 → 剣ヶ峰 → ユートピア避難小屋
→ 元谷 → 県営大山第 1 駐車場

行動時間：9 時間 25 分

3 日の 21 時北九州を出発。3 名交代での運転、その間車中で仮眠を各自取りながらの移動であった。

完全には熟睡できなかったが、とにかく目を閉じ眠ることに専念。

深夜 2 時大山横原駐車場着。雪は周辺に少しあるだけで溶けている。早々に仮眠、4 時起床。

いつも利用している南光河原駐車場は、好天が望める土曜日とあって満車であったため、県営大山第 1 駐車場〔1 日¥1,000〕に移動し駐車後、キャップランプを頼りに 5 時 10 分出発。

元谷についたころに空が白み始める。大山北壁を目の前にすると、何度見ても感動する。

元谷避難小屋経由でトレースをたどり進む。

弥山尾根と滝沢尾根の分岐でトレースが滝沢尾根の方にも続いていた。

北壁のルートは、取付きまでのアプローチでいつも苦勞するため、せっかくの晴天で滝沢尾根への取付きへのトレースが確認できたため、ここで本日の目標を滝沢尾根とした。



元谷より伯耆大山北壁を望む

先行パーティーが先に滝沢尾根の末端から取付いており、我々は、右の雪壁から回り込んで取付くこととした。

このあたりで右に
回り込み岩稜を乗
り越えた

先行パーティー

ここで装備装着

滝沢尾根登攀ルート



先行パーティーは、尾根の末端
から取付いていたが、我々は、右
側の雪壁を登り尾根に取付いた。

右側雪壁の登り

積雪の下の氷もしっかりしてアイゼンの効きもよく、風もあまりない快適な登攀となった。

下部の2ピッチ目、右から回り込んで岩を乗り越す箇所で多少バランスを要した。

ここが核心部かなと感じた。

その後は、ブッシュがある尾根を忠実に登る。

景色も素晴らしく快適な登攀で、ついシャッターを切る回数も多くなった。

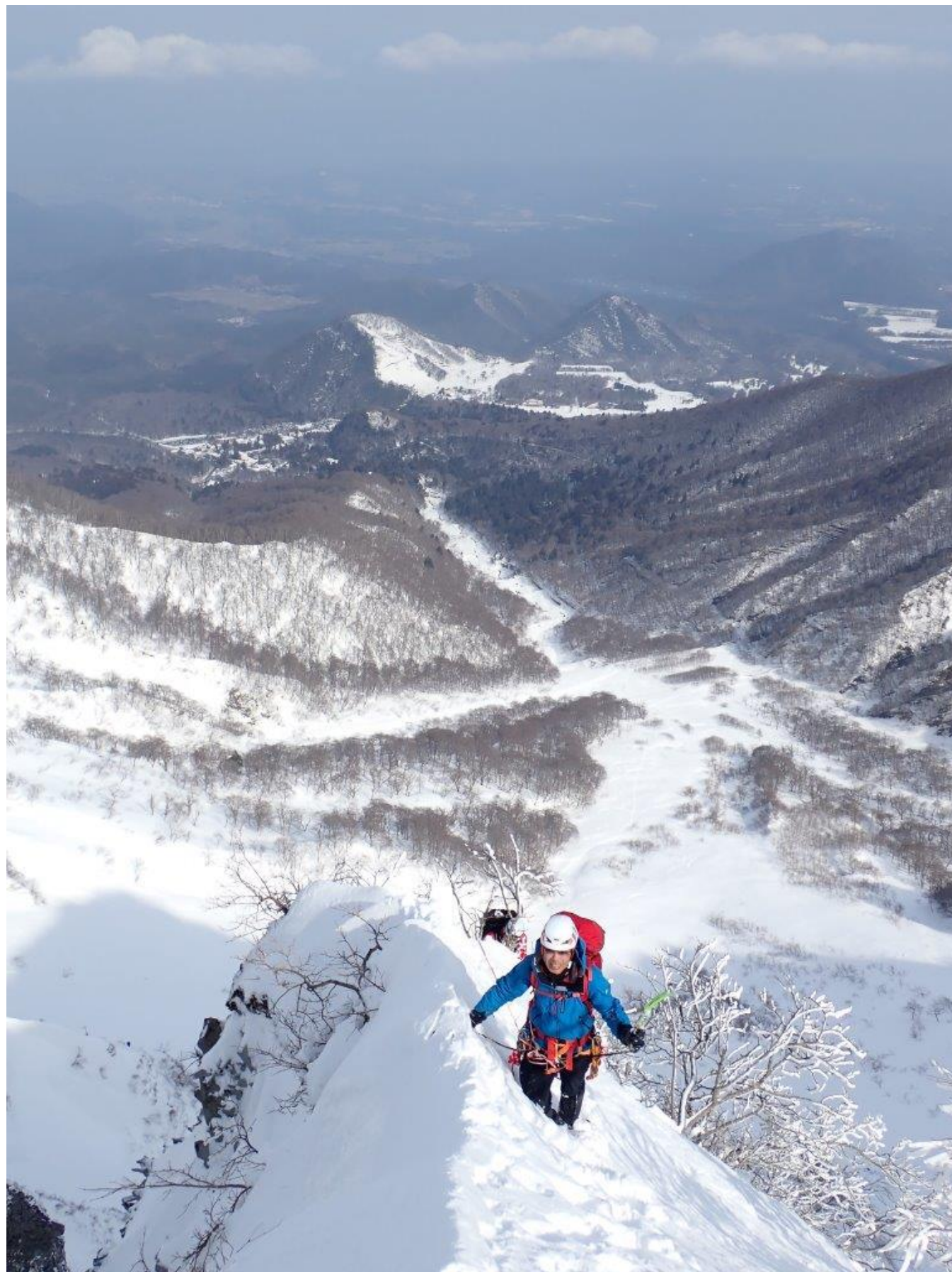


3ピッチ目の出だし



弥山尾根とその奥に昨年登攀した別山のピークが望めた





元谷の向こうに豪円山とスキー場が望める

登っていると寒さも感じず、周りの風景を楽しみながら登って行った。
欲を言えば、もっとすっきりとした青空が望まれば満点であったのだが。

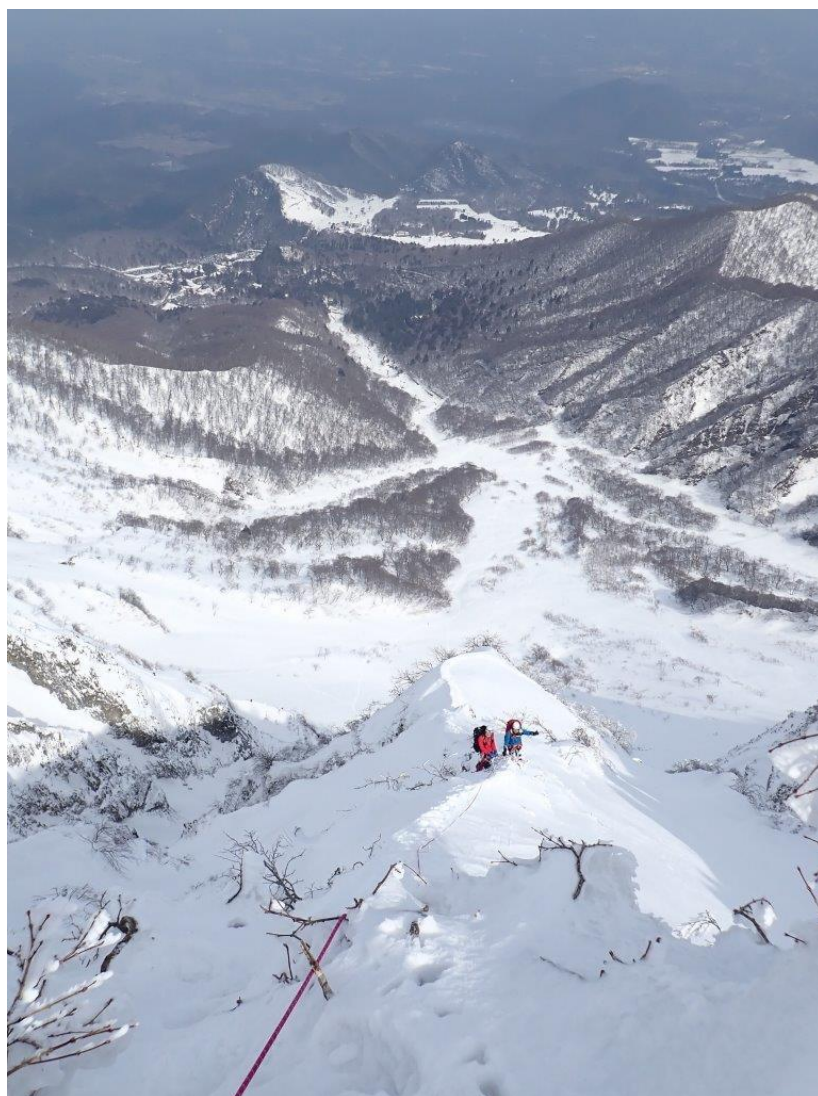


この付近より日が差し、霧氷が輝いて神秘的な感じ



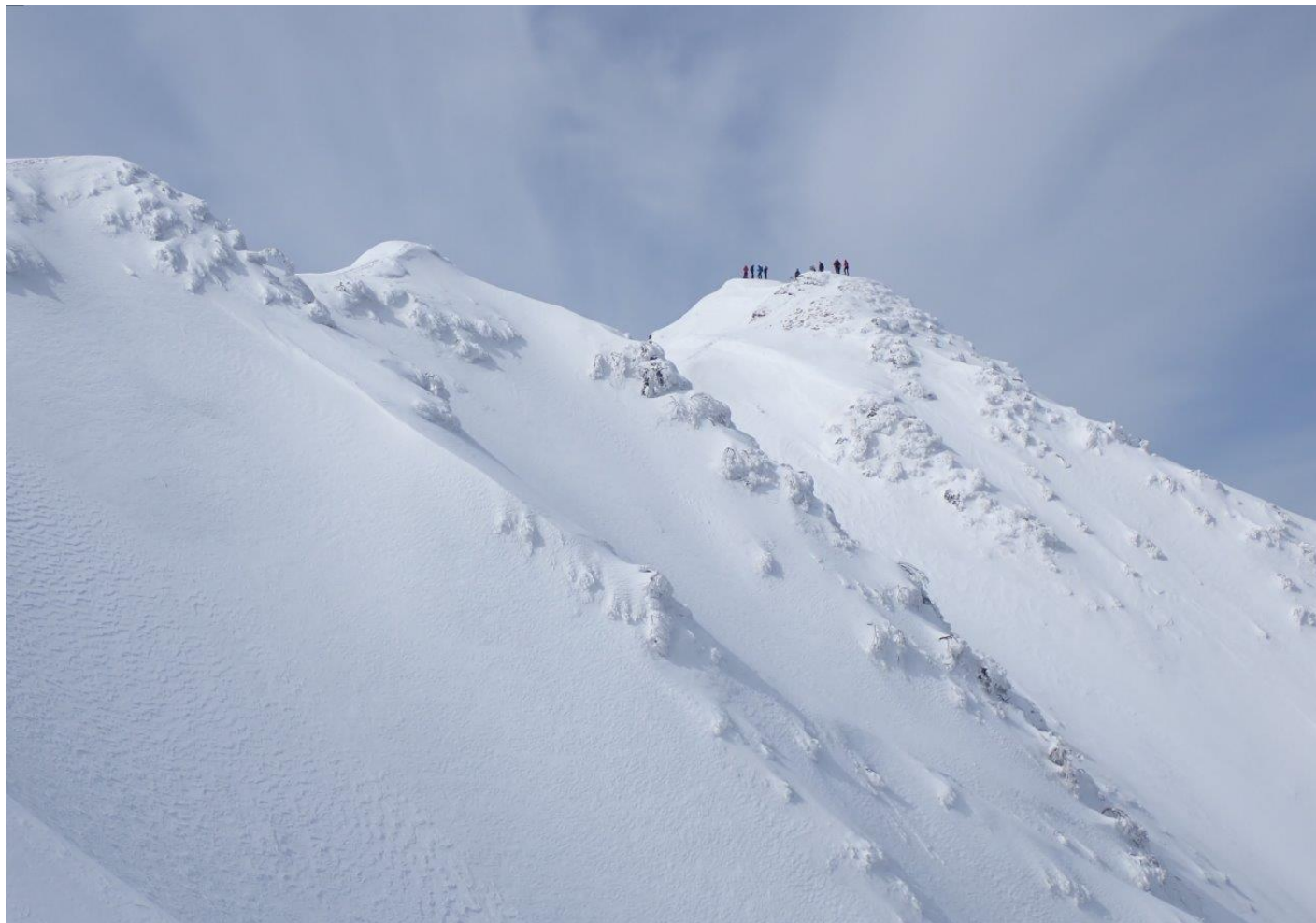


この辺に來るとブッシュも
少なくなり、念のためザイ
ルを出しているが、快適な
登りとなる





このリッジを超え人登りすると縦走路との合流点



弥山山頂の登山者



この先が縦走路との合流点



滝沢尾根を抜け縦走路との合流点にて



滝沢尾根の取付きで登攀装備を付けて、縦走路に出るまで約4時間の行程であった。

この時点で弥山より縦走してくる登山者はなかったが、我々がラクダの背を通過して剣ヶ峰に向かうと、様子をうかがっていた弥山山頂の多くの登山者が我々の後を追って列を組んで縦走に向かってきた。



後方、多くの登山者が縦走を始めた





ラクダの背付近 スリル満点



後方 剣ヶ峰



槍尾根と後方に烏ヶ山





後方 天狗ヶ峰と剣ヶ峰



ユートピア避難小屋と三鈴峰



元谷へ下山 後方 左 墓場尾根 右 大屏風岩

滝沢尾根を抜け、剣ヶ峰からユートピア避難小屋経由で元谷へ下山。

久しぶりの好コンディションに恵まれた快適な登攀であった。

行きの車中の仮眠と短時間の睡眠での行程は、以前は、苦にならなかったが、年を取ると本番の登攀より骨身にこたえる。

しかし、今回の素晴らしい絶景の中、眠気も疲れもみんな吹き飛んで、楽しみながら登ることが出来た。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by M.Dobashi & S.Okamura